

令和 3 年 6 月 11 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04728

研究課題名（和文）公立進学校の教育効果 高校時代の経験とキャリアとの関連性をめぐる実証的研究

研究課題名（英文）Educational Effects of a Prestigious Public High School: A Study of the Relationship between High School Experience and Career

研究代表者

濱中 淳子（HAMANAKA, JUNKO）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：00361600

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「進学校」や「名門校」と呼ばれる高等学校が、その学校生活を通じてどのような人材を育成してきたのかについて、実証的に明らかにすることを目的としたものである。進学実績で名が広く知られている公立の高等学校（神奈川県立湘南高等学校）に調査協力を依頼し、郵送数7,840、有効郵送数7,777、回収数1,775という規模の卒業生調査を実施した。分析においては、過去に別の研究プロジェクトで行った他の進学校卒業生調査のデータとの比較も試みた。そのなかで、公立三年制と私立中高一貫校の共通点ならびに相違点の抽出等を行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義ならびに社会的意義は、次の3点に集約されると考えている。すなわち、第1に、教育研究において十分に検討されてこなかったトップ層の実像について、多面的に迫っていること、第2に、同じく十分に検討されてこなかった「公立高等学校」と「私立中高一貫校」それぞれの特徴について実態レベルで議論できること、そして第3に、リーダー的役割を担うなど、「一歩先を行く」働き方ができている者の特性について、在学時代から現在までのスパンのなかで吟味していることである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to empirically clarify what kind of educational effects "prestigious" high schools bring about through their school life. We conducted a large-scale questionnaire survey of graduates of public high schools whose names are widely known throughout Japan. In the analysis, we attempted to compare the data with those of other surveys of graduates of prestigious schools conducted in the past in other research projects. As a result, it is pointed out that there are some differences between public three-year schools and private integrated high schools, but at the same time, there are also significant similarities.

研究分野：教育社会学

キーワード：教育の効果 卒業生調査 高校教育 学習時間 部活動 学校行事 高大接続 キャリア教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 人材育成のありようをめぐることは、労働経済学者や経営学者、一部教育領域の研究者によって議論が積み重ねられてきた。本研究の代表者である濱中も、このテーマに関して独自のアプローチから実証分析を重ねてきた。その特徴は次の2点から説明できる。第1は、現場主義からの脱却である。誤解を恐れずにいえば、人材育成問題を扱う従来の研究は、成長をもたらす就業後の経験を特定化することに注力してきた。配置換えや昇進のありよう、あるいは仕事内容や周囲の人間関係の効果を検討する、といったスタイルである。しかしながら人材としての素質を伸ばす経験は、なにも就業後のみに限定されるわけではない。就業前＝在学時の経験の影響も十分に想定され、それゆえ学校での学習や課外活動がどのように生きてくるかといった視点を加味した分析を行ってきた。第2は、能力の統制を試みたうえでの分析である。成長を促す効果的な要因が分析から抽出されたとしても、その要因を自らの成長の糧にできるかどうかは、もともと能力によって異なっているかもしれない。こうしたなか、とりわけトップ層に有益な経験は何かという問いをベースにした知見の抽出を試みてきた。

(2) 代表者のこうした取り組みの1つであり、本研究の出発点に据えたのが、東京大学進学者数などで知られる私立中高一貫校——具体的には、東京都の開成中学校・高等学校と兵庫県の灘中学・灘高等学校——の卒業生に対して実施した質問紙調査である。選抜性の高さや進学実績が顕著な学校へ進学した者たちの姿について詳しく分析し、これまで語られたことがないトップ層の実態を描きだしたと判断している（濱中淳子 2016『「超」進学校 開成・灘の卒業生——その教育は仕事に活かせるか』ちくま新書）。しかしながら他方で、対象が「私立中高一貫校」だったがゆえに、公立の進学校（高等学校）でも同じような構図が描けられるのかといった問いを、別途検討すべき今後の課題として残していた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、まさに以上で示した課題に迫ることを目的としたものである。全国的に進学校として名が知られている公立高等学校の卒業生調査を実施し、私立中高一貫校調査の知見やデータを参照しながら、改めてトップ層の成長物語を紡ぎだすことを主眼に置いている。

(2) 強調しておきたいのは、このテーマ自体、教育研究者たちが十分に取り組んでこなかったという点である。民主主義一辺倒だった教育界は、エリートやトップ層の研究をタブー視してきたところがあったからだ（麻生誠 1978『エリート形成と教育』福村出版など）。高等学校を対象にした研究も、生徒文化研究であれ、トランジション研究であれ、進路多様校の問題に注力するものが多かった。しかしながら先行き不透明な状況を背景にリーダー待望論が叫ばれ、他方で中等教育段階以降の教育改革（中高一貫教育の推進や高大接続改革など）も加速している昨今、進学校をめぐる理解を深めることはこれまで以上に重要なテーマとして立ち上がっているはずだ。本研究から抽出される知見は、学術研究としてのみならず、教育実践の場や政策に対しても、有意義なものになると考えている。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、「文献調査」「公立進学校（高等学校）の卒業生への質問紙調査」「関係者への聞き取り調査」「分析・研究成果発信」という4つの柱によって構成されるが、上述のように、適宜、他の調査で得られたデータを活用した分析を行うところに大きな特徴がある。

(2) 「文献調査」と「関係者への聞き取り調査」は研究期間の前半に集中的に行い、後半は「質問紙調査」の実施とデータ分析に注力した。質問紙調査は、幸いにも神奈川県立湘南高等学校の調査協力が得られ、郵送数 7,840、有効郵送数 7,777、回収数 1,775（回収率 22.8%）という規模の卒業生調査を実施することができた。

(3) 以上の調査のデータベースを作成したうえで、比較を目的として、以下の3つのデータを結合した。①は「1. 研究開始当初の背景」で触れた調査であり、②は別の研究プロジェクトで実施した調査、③は①と同時期に並行して行った調査である。

- ① 2つの私立中高一貫校（開成・灘）の卒業生データ
- ② 湘南高等学校と同じく首都圏の進学校であり、湘南高等学校と長らく交流もあった「浦南高等学校（男子校）」の卒業生調査データ
- ③ WEB 調査会社のモニターとして登録している首都圏の高校を卒業した大卒男子に実施した調査データ

なお、開成、灘、浦和については、分析を始める際に、改めてデータの使用許可をもらっている。また、本研究の分析結果は、対象校関係者との意見交換を適宜行い、これまでも学校名を出したかたちでの公表を行ってきた。この報告書も同様のスタイルで記述している。

4. 研究成果

本研究の柱である質問紙調査の結果について、概要を示せば次のとおりである。

(1)進学校卒業生の職業分布から見れば、図表 1 の結果が得られた。まず、男性の場合、湘南卒業生と浦和卒業生の分布とかなり似通っている。一般大卒よりは少ないものの、やはり企業に勤める者が多い。3 人に 2 人が企業勤務であり、1 割弱の比率で、公務員、医師、研究者と続く。開成・灘卒業生とは、「医師」比率の部分でやや開きがある。他方で女性は、男性に比べて企業以外の場で仕事に従事する人が多い。とくに注目されるのは、「教師」11.0%という値である。湘南を卒業した女性の 10 人に 1 人は、教員免許を取得し、教壇に立っている。

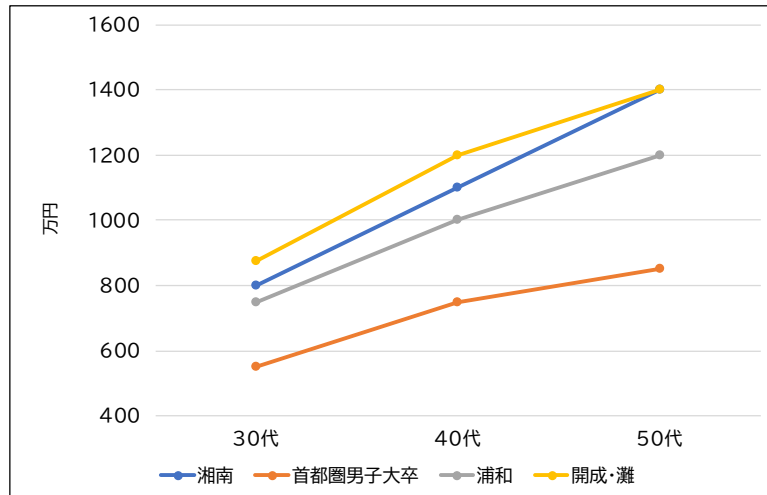
図表 1

	湘南			首都圏 大卒男子	浦和 (男子校)	開成・灘 (男子校)
	全体	男性	女性			
企業勤務 (起業含む)	62.4%	68.4%	55.6%	81.6%	65.8%	50.6%
医師	5.8%	7.7%	3.7%	1.0%	8.7%	22.0%
研究者	4.7%	6.1%	3.2%	0.8%	5.5%	8.5%
公務員	8.8%	8.4%	9.2%	5.9%	9.0%	8.0%
教師	7.3%	3.9%	11.0%	3.2%	5.1%	2.1%
その他 専門職等	11.0%	5.3%	17.2%	7.5%	5.9%	8.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 企業勤務者について業種と企業規模を確かめれば、湘南（男性）、浦和、開成、灘いずれも「製造・建設業」と「金融保険業」で過半数を占め、そして同じく過半数が「従業員数 5,000 人以上の大企業」勤務だという共通点が見出せた。これがいわゆる進学校を卒業した男性の主だった勤め先ということなのだろう。他方で湘南卒業生(女性)には、男性と比べてサービス業等が多く、中小企業で働く比率が高いという様相が見受けられた。

(3) 企業勤務者（男性）について、所得分布の特徴を抽出すると、図表 2 に示すグラフが得られた。30 代、40 代、50 代の別に中央値を示したグラフだが、ここからは、①キャリア初期は公立の 2 校と私立 2 校とのあいだにすでに開きがみられること、②しかしながら湘南卒業生の場合、その開きは 50 代になって見られなくなっていること、③同じ公立といえども、湘南と浦和との間には差はむしろ拡大していることが読み取れた。なお、湘南と浦和の 2 校について分析を進めると、専門職として働く卒業生の場合は、逆に浦和卒業生のほうに高い年収や高い就業意欲が認められた。あわせて指摘しておきたい。

図表 2



注：年収300万以上という回答のみ抽出して算出。

(4) 企業勤務者として働く女性の湘南卒業生については、まず、その所得分布から平均的な男子と同等もしくはそれ以上の対価を得ながら働いていることがうかがえた。ただ同時に、その所得の高さは役職があがるというよりは、企業規模の特性（＝勤務先が大企業であること）によってもたらされていることも明らかになった。男女雇用機会均等法が成立、施行を受けていち早く大企業に活躍の場を見出した女性卒業生の働き方がこうした結果に反映していると判断される。

(5) 公立進学校と私立中高一貫校の違いを、その能力の獲得時期に注目して分析すると、「与えられる課題を達成する力」「問題点や批判を見出す力」「知識量」については、私立中高一貫校卒業生のほうが中高時代から大きく伸ばしており、「対人関係能力」や「体力」については、公立進学校である湘南の卒業生のほうが早くから自信をつけていることがわかった。ただ他方で、強調しておきたいのは、こうした差は大学時代を通して解消されているというもうひとつの結果である（図表 3）。すなわち、山登りに例えるならば、登山口やルートが異なるだけであり、頂を目指し、到達するという点に関しては変わらないことが示唆された。

図表 3

与えられた課題を達成する力			体力		
	湘南	開成・灘		湘南	開成・灘
(中) 高校時代	62.2%	< 68.8%	(中) 高校時代	76.6%	> 65.8%
大学時代	74.8%	74.6%	大学時代	71.8%	70.8%

問題点や批判点を見出す力			対人関係能力		
	湘南	開成・灘		湘南	開成・灘
(中) 高校時代	47.2%	< 54.2%	(中) 高校時代	53.7%	> 47.6%
大学時代	64.7%	67.3%	大学時代	66.0%	62.0%

知識量		
	湘南	開成・灘
(中) 高校時代	38.2%	< 55.2%
大学時代	50.3%	52.8%

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 濱中淳子	4. 巻 20
2. 論文標題 学力トップ層の教育とキャリア：卒業生調査を用いた所得関数の計測から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 名古屋高等教育研究	6. 最初と最後の頁 235-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/njhe.20.235	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

コラム「湘南生解体新書～エビデンスに基づく『すごさ』の検証」第1回「湘南生を解体する」 http://www.shoyukai.org/?p=22300 コラム「湘南生解体新書～エビデンスに基づく『すごさ』の検証」第2回「湘南卒業生の働き方（1）」 http://www.shoyukai.org/?p=22582 コラム「湘南生解体新書～エビデンスに基づく『すごさ』の検証」第3回「湘南卒業生の働き方（2）」 http://www.shoyukai.org/?p=22798 コラム「湘南生解体新書～エビデンスに基づく『すごさ』の検証」第4回「湘南卒業生の働き方（3）」 http://www.shoyukai.org/?p=23284 コラム「湘南生解体新書～エビデンスに基づく『すごさ』の検証」第5回「湘南卒業生にみる成長の特徴」 http://www.shoyukai.org/?p=24080 コラム「湘南生解体新書～エビデンスに基づく『すごさ』の検証」第6回「専門職にみる浦和との違い」 http://www.shoyukai.org/?p=24436

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------